

認知症啓発へ 学生団体発足

岡山県内で福祉分野を学ぶ5大学の学生が認知症について啓発する団体「認知症オレンジパートナー」を発足させた。関心を高め、誰もがその人らしく過ごせる社会を目指そうと大学の垣根を越えて連携。初の取り組みとして3日、若年性認知症の当事者2人を招いたシンポジウムを県立同大や川崎医療福祉、美作、新見公立、ノートルダム清心女子の各大学の計約40人で昨年11月に設立。啓発イベントの開催に向けてビデオ会議など協議を重ね、手始めに若年性認知症をテーマにシンポジウムを企画した。

当事者招き あす初のシンポ



タイムスケジュールなどを確認するオレンジパートナーの学生たち＝2月28日

当日は、30代で診断とは多いはず。気軽にされ、相談窓口「おれんじドア」を開設する丹野智文さん＝仙台市＝と、カメラマンを続ける傍ら啓発に取り組む下坂厚さん＝京都市＝が対談。診断前後の生活の変化などについて話すほか、シンポジウムは県立「認知症の人と家族の会」県支部のメンバーも加わり、来場者と意見を交わす座談会も行う。

参加して当事者の声を聞いてほしい」と代表の川崎医療福祉大医療福祉学部4年石原舞依さん(22)。今後は認知症カフェや子どもが参加できるイベントも開きたいという。

大講堂で午後2時間始。入場無料。予約やインスタグラム、

2月28日はメンバー
が会場でタイムスケジ
ュールなどを確認し
た。「今も自分らしく

事務局の堀川涼子・美
作大生活科学部教授
(090-6832-
4156)。

生きる2人から学ぶこ

(山本貴之)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。